

不動明王像遷座の歴史

京都：高雄山神護寺より現在地成田山迄の考察



寛朝大僧正は、京都：高雄山神護寺に安置されていた弘法大師空海自らが敬刻開眼した不動明を捧持して京の都を出発し「難波津」（大阪）から海路「尾垂ヶ浜」（千葉県山武市横芝光町尾）へ、そして陸路下総国公津ヶ原に到着した。ここ公津ヶ原に尊像を安置して21日間にわたり朝敵降伏の祈禱を修した。公津ヶ原からの不動明王は、どのように遷座したのか？多くの記述があるが、どれが正しいのか？私なりの推理と現地調査で下記の結論に達したが疑問も多々ある。

京都：高雄山神護寺→下総国公津ヶ原 その②参照

不動明王像が最初に遷座した成田の地は下総国公津ヶ原のどこであろうか？

下総国公津ヶ原とは

成田ニュータウン内には多くの古墳があるが、これらを公津ヶ原古墳群と呼んでいる。

下総国公津ヶ原は現在の成田ニュータウンだけでなく、不動ヶ岡、並木町を含めた全体が公津ヶ原と呼ばれていたのではないだろうか？

この様な推理の元最初に不動明王像が遷座したのは、成田市並木町の不動塚ではないか？

地名「不動ヶ岡」は不動明王像の遷座と関係あるのか？この地に安置されていたのか？

現在の並木町あたり迄が不動ヶ岡（地名の由来）と呼ばれていたのではないか？

私 説（その①～その⑥までに記されている場所を総合して推理する）

→成田市並木町にある「不動塚」周辺 その①参照 写真④参照

→米屋本店の敷地内 1566年迄（永禄九年） その③④参照 写真①参照

→神明山（平成22年8月迄個人の所有地であった） その③④参照 写真②参照

神明山 888坪は平成22年8月奉納により現在新勝寺の所有地の様です

〔愛宕山（新勝寺の古境内、向坊とも呼ばれている） その⑤参照 写真③参照〕

→現在地（1655年には薬師堂建立） その⑥参照

神明山の一部を愛宕山と呼んでいたのか？つまり愛宕山は神明山と思われる。

薬師堂が現在の大本堂がある位置に建立された1655年に不動明王は

無事現在地に奉安されたのではないか？

その①

新勝寺はこの940年（天慶3年）を開山の年としている。乱平定の後永禄年間1566年（永禄9年）頃に成田村一七軒党代表の名主が不動明王像を背負って遷座されて伽藍を建立された場所が、現在の成田市並木町にある「不動塚」周辺と伝えられ成田山発祥の地と言われている。

「また新たに勝つ」という語句に因み新勝寺と名づけられ、東国鎮護の寺院となった。その後、新勝寺は戦国期の混乱の中で荒廃し、江戸時代までは寂れ寺となっていた。

ウィキペディアより

その②

京都：高雄山神護寺の不動明王は千葉県成田市の成田山明王院神護新勝寺に遷座したが神護寺に戻って来なかった為、**神護寺では平安後期に不動明王を新しく造仏し**明王堂にこの不動明王像が祀られています。また神護寺明王堂の扁額は七代目市川團十郎が揮毫されたものです。

千葉県成田市にある真言宗智山派の大本山。成田山明王院神護新勝寺の寺伝によれば、平安時代中期に起きた平将門の乱の際、939年（天慶2年）朱雀天皇の密勅により寛朝大僧正を東国へ遣わしたことに起源を持つ。京都広沢遍照寺の僧寛朝は京の高雄山（神護寺）護摩堂の空海作の不動明王像と朱雀天皇より授かった天国の宝剣を捧持し東国へ下り、翌940年（天慶3年）、海路にて上総国尾垂浜に上陸。平将門の乱を調伏するため、**下総国公津ヶ原**に尊像を安置して21日間にわたり朝敵降伏の祈禱を修した。

その③

新勝寺は、940（天慶3）年に寛朝によって開山された。朱雀天皇の勅命により、寛朝が京都高雄山神護寺の不動明王像を捧持して護摩祈禱を行い、平将門を平定したことに始まる（成田市史編さん委員会編，1986a）。本尊の不動明王は公津ヶ原に安置されたが、その後現在の米屋本店の敷地内と神明山を経て、1566（永禄9）年に寺台城主海保甲斐守三吉によって現在地に移された。

地域研究年報 32 2010 1-41（成田市史編さん委員会編）より

その④

成田のお不動様で有名な大本山成田山新勝寺は、天慶三年（940年）に朱雀天皇の勅願により東国鎮護の霊場として開山され、以来、法灯絶えることなく今日に伝えられています。

最初に御堂が建てられたのは、成田市域の南方、公津ヶ原と呼ばれる所でありました。

しかしその後、室町時代中期以降は、さしもの偉容を誇った伽藍もすっかり荒れ果て、近在の名主たちの相談により、ご縁があつて成田村の名主**諸岡三郎左衛門**がご本尊不動明王のご尊像を自分の屋敷内にお遷しすることとなり、**1566年（永禄九年）**までの間、奉仕をいたしておりました。三郎左衛門は米屋株式会社創業者の遠祖にあたる人物で、その屋敷跡はなごみの米屋總本店敷地内お不動様旧跡庭園の一角にあたります。弊社は、永禄の昔以来お不動様とのありがたいご仏縁から、成田の歴史と共に歩み続けております。

お不動様旧跡庭園 お不動様がはじめて成田に御遷座された場所が、なごみの米屋總本店敷地内にあります。この地はなごみの米屋の原点であり、聖地として大切に保存しています。

成田山ご参詣の折、憩いの場としてご自由にご利用ください。

成田山のご本尊がこの地に安置されていたことを記念し、さらに弊社がお不動様に奉仕して今日に至りましたことを感謝するために建立しました。昭和四十一年十月、成田山中興第十九世貫首・松田照應大僧正を大導師にお迎えし、除幕式を執り行いました。文字は弊社の創業者諸岡長蔵の筆になります。

成田山は縁起によると、940年（天慶3年）に公津ヶ原に遷座され、仲町の神明山に移された後、1566年（永禄9年）に現代の地に本堂が再建されたとありますが、仲町に移される前にこのお不動様旧跡庭園の場所に不動明王像が移されたという伝承があります。

不動明王像は、遷座当初公津ヶ原に御堂を建て安置されていましたが、当時の房総の地は、幾多の戦乱の舞台となっており、伽藍も影響を受け次第に荒れ果ててしまいました。そこで、このまま不動明王像をこんなところに放置しておいては申し訳ないと米屋創業者諸岡長蔵の祖先にあたる諸岡三郎左衛門が屋敷内にお遷しすることとなり、仮堂を建て、井戸から汲んだ水を尊像に供えていたと伝えられています。

米屋本店の記述より

その⑤

地蔵堂のある愛宕山は、その昔、**新勝寺が現在地に不動明王を奉安する前の遷座地**であるところから、古境内、向坊とも呼ばれています。里人たちは、この御堂を愛宕様と呼んでいます。この地蔵堂は、新勝寺の境外仏堂であり、將軍地蔵を本尊としています。

もともと將軍地蔵というのは、地蔵菩薩の一つで、獅子冠をいただき甲冑に身を固めて、三叉戟（さんさげき）か 劍を持ち、馬に乗った像容をしているのですが、この地蔵堂には仏像は安置されていません。しかし毎年十一月二十四日の祭礼には新勝寺から御神体が届き、仲町の男衆の手によってお祭りが挙行されます。將軍地蔵は愛宕神社の守り本尊であることから、いつの頃からか、愛宕神社の火結神（ほむすびのかみ）と將軍地蔵尊が習合し、神・仏が混交して火伏の神様（火災除けの神様）として、今なお、人々の信仰を集めています。

地蔵堂説明書より

その⑥

現在地に境内を遷座したのは、江戸時代の元禄年間（1688~1704）とか、宝永2年（1705）とかの説がありますが、成田山新勝寺大本堂建立記念として出版した昭和43年（1968）3月の『新修成田山史』には、<現境内に遷地したのは少なくとも**天文年間（1532~55）**か、**それ以前**でなければならない。さすれば永禄年間（1558~70）の遷座入仏は諸堂を整備した落慶記念の式典を行ったことを意味するものであろう。>とあり、「天文年間か、それ以前」としています。



①米屋本店裏にある御不動様旧跡庭園



神明山通り入り口



石段右側が神明山



②石段右にある石碑

「旧跡聖地 神明山」の石碑の裏には平成22年8月に地積888坪を奉納とある



③愛宕山



フェンスに囲まれた地蔵堂



愛宕山から成田山を見る

千葉県成田市並木町にある不動塚（④下記写真）



不動塚



不動塚内の不動明王像（石造）



「改修成田山新勝寺」とお堂の左前側にある、最初に遷座した場所と思われる。

平成 29 年 4 月再び改修されきれいになりました。

不動明王がなくなった京都：高雄山神護寺

寛朝大僧正は、京都：高雄山神護寺に安置されていた弘法大師空海自らが敬刻開眼した不動明を捧持して京の都から成田市の公津ヶ原に尊像を安置した。この不動明王像は返却されていない。成田山は神護寺に賃貸料を支払っていたとの噂もあったが、本当だろうか？神護寺のご本尊は不動明王ではなく、薬師如来である為お寺として問題はなかったのかも？

現在神護寺明王堂に安置されている不動明王像は、平安時代中期頃の作と考えられています。



京都：高雄山神護寺明王堂

山号は高雄山。本尊は薬師如来。京都市右京区梅ヶ畑高雄町 5
正確な不動明王遷座の記録はなく、あくまで私の推理と現地調査です。